

経済・金融フラッシュ

No.07-069 2007/09/07

米8月ISM指数に見る信用収縮の企業部門への影響は限定的

ニッセイ基礎研究所 経済調査部門 主任研究員 土肥原 晋

TEL:03-3512-1835 E-mail:doihara@nli-research.co.jp

1、8月ISM指数は製造業が統落、非製造業では横這いに

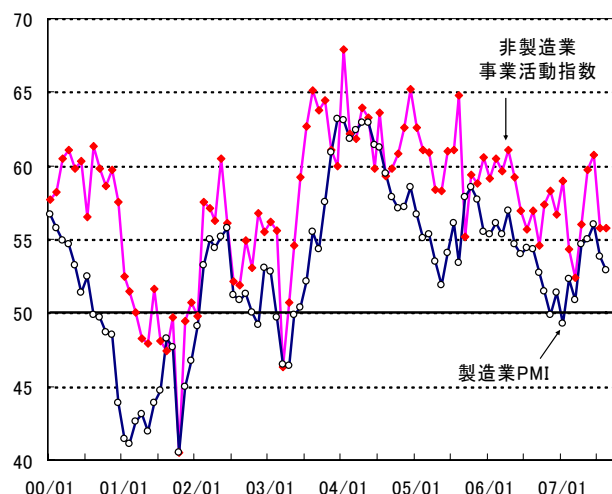
企業のセンチメントを示すISM指数は、9月4日発表の8月製造業指数が52.9と、2ヵ月連続での低下（7月は53.8）となり、市場予想（53.0）をやや下回った。同指数は本年1月に49.3と製造業の景気のかかれ目とされる50を下回ったものの、その後6月には56.0まで回復し、再び低下の動きとなっている。ただし、2月以降は7ヵ月連続で50を上回っており、引き続き製造業拡大の持続が示された形である。

一方、6日に発表された8月のISM非製造業事業活動指数は55.8と7月と同値となり、市場予想（54.5）を上回った。7月の低下が大きかったこともあって（60.7→55.8）、8月は同水準を維持しており、また、最近のボトムである3月52.4には余裕を残している。

ただし、後述のように事業活動指数以外の非製造業部門の各指数の入り繰りは比較的大きく、特に雇用指数が50を割り込んだのが気懸かりである。5日発表のFRBページブックでは雇用の増加が報告されていただけに、本日（7日）発表の雇用統計が待たれる。

なお、18日開催のFOMCに向け、8月の金融市場の混乱を受けた实体经济への波及が注目されている。今回のISM指数は、そうした状況を反映し、最初に発表される主要指標の一つであることから市場の注目度が高かったが、今のところ企業部門全体への波及はそれほど大きくないと受け止められている。

(図表1) ISM指数の推移



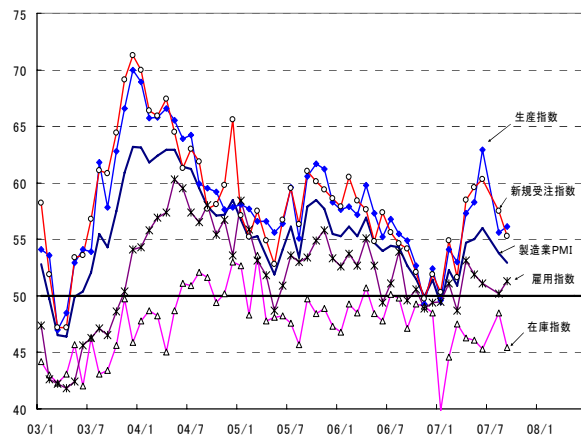
(資料) Institute for Supply Management

2、ISM製造業指数では、生産・雇用指数が改善

製造業ISM指数のうち、各主要指数別に8月の動きを見ると、新規受注指数が55.3（前月57.5）、在庫指数が45.4（前月48.5）、等と低下し製造業PMIを押し下げている。

半面、7月に急低下した生産指数は56.1（前月55.6）とやや持ち直し、雇用指数も51.3（前月50.2）と回復を見せた。このため、7月指数のように、在庫が上昇する中、生産・新規受注・雇用等の主要指数が軒並み低下を見せ、全体の製造業指数が低下するなど、悲観的な見方が強まったのに比べると、やや下げ止まり感の窺える状況と言える。もともと、新規受注指数は2ヵ月連続で低下幅も比較的大きく、先行き不透明感の強まりを窺わせるものと言えよう。

(図表2) ISM製造業指数の内訳と推移



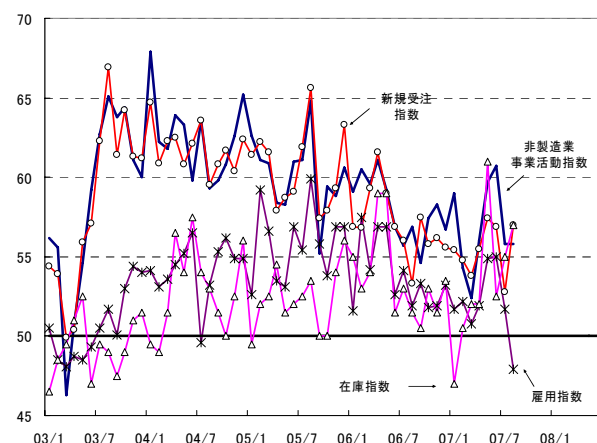
(資料) Institute for Supply Management

3、非製造業では、新規受注改善の一方、雇用指数が低下

ISM非製造業指数のうち、8月の事業活動指数以外の動きを見ると、新規受注が57.0（前月52.8）と5月以来の水準を回復し、在庫57.0（前月55.0）や新規輸出受注53.5（前月52.5）等も上昇を見せた。半面、雇用指数が47.9（前月51.7）、入荷遅延50.5（前月51.5）、等が低下した。中でも雇用指数は2ヵ月連月の低下で50を割り込み、2002年12月以来の低水準となり、調査回答18業種の内、建設、情報、人材派遣等、8業種で悪化を示した。

なお、全体の過半の指数が55を上回り、また、50を割り込んだのは雇用指数だけであるなど各指数の水準は高く、総体的にサービス業の好調が続いていることを示している。

(図表3) ISM各非製造業指数の推移



(資料) Institute for Supply Management

(お願い)本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。

(Copyright ニッセイ基礎研究所 禁転載)